

教員推薦図書 2020年8月

推薦教員	日本伝統文化学科 助教 小橋 玲治 先生	【推薦コメント】 コロナ禍はウィルスそのものの蔓延によって引き起こされているものだが、他にも撒き散らしているものがある。それがいわゆる「デマ」＝流言である。「〇〇がコロナに効果がある」「〇〇が品切れになる」「ロックダウンが起こる」といった出処不明の情報が、特に Web 上を駆け巡った。「メディア」というと大手マスコミだけを示す言葉だと思っている人もいるかもしれないが、今や SNS を駆使する我々一人一人がメディアであるという認識は、現代に生きる上で必須なりテラシーであろう。 この本は、トランプ大統領の決め台詞である「フェイクニュース」といった現代におけるメディア流言の問題から始まり、様々な流言にまつわる事象を扱っている。個人的には、『宇宙戦争』（トム・クルーズ主演の映画でも知られる）のラジオドラマを聞いた人々が、本当に火星人が来襲したと思い込んでパニックに陥った、というよく知られている「伝説」が、実はそんな事実などなく、いかにしてそれが事実となっていたのか、が非常に興味深かった。我々が事実であると思っていることも、詳細に調べてみると意外な真実が明らかとなる。これは無論研究にも通じることであり、そういう点でもお薦めの一冊である。
書名	流言のメディア史 (岩波新書 新赤版 1764)	
著者名	佐藤卓己 著	
出版社	岩波書店	
請求記号	361.453/Sat	
資料ID	901116346	